

アカモズとチゴモズの異種間つがいによる巣づくりと求愛給餌

大畑孝二¹

はじめに

ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター周辺でアカモズとチゴモズの異種間つがいによる巣づくりと求愛給餌が観察されたので報告する。

アカモズは全国的に渡来する夏鳥で、ウトナイ湖周辺には毎年5月下旬に渡来し、繁殖している。チゴモズは北海道では記録が少なく、留萌支庁、渡島支庁で数回の記録があるだけで（日本野鳥の会北海道ブロック支部連絡協議会 1991）、繁殖記録はない。ウトナイ湖サンクチュアリでも初記録である。

観察記録

1991年6月26日16時30分、ネイチャーセンター前のハンノキの上で、アカモズがチゴモズに求愛給餌をするのを1回観察した。食物の種類はわからなかったが、昆虫のようであった。チゴモズは食物を受けるさい翼をふるわせることはせず、アカモズから食物を受けるとす早く食べ、アカモズも食物を与えるとす早くチゴモズから離れ近くの枝にとまった。

6月27日、ネイチャーセンター前のエゾノコリンゴの茂みの中に巣を発見し、行動を観察した。

9 : 30 アカモズが巣材運びをした。

9 : 35 チゴモズ //

9 : 40 チゴモズ //

9 : 45 アカモズ //

9 : 51 チゴモズ //

9 : 52 アカモズ //

9 : 53 チゴモズ //

9 : 54 アカモズ //

9 : 56 チゴモズ //

10 : 4 チゴモズ //

その後10時50分まで観察を中断した。10時53分チゴモズが巣材運びをした。その後観察を中断した。

6月28日、5時30分に巣の中にいるアカモズを観察した。その後観察を中断した。

14 : 4 チゴモズが巣材運びをした。

14 : 5 アカモズが巣材運びをした。その後観察を中断した。

17 : 45 アカモズからチゴモズへの求愛給餌が、ネイチャーセンター正面西側のタラノキの上で行なわれた。

18 : 8 アカモズが巣材運びをした。

1991年10月15日受理

1. 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ。〒059-13 苫小牧市字植苗150-3

18:27 アカモズが巣材運びをした。

18:30 アカモズからチゴモズへ求愛給餌が行なわれた。

27日は両方がさかんに巣づくりを行なっていたが、28日はあまり行なわなかった。巣がほぼ完成したためだと思われる。両方とも終日ほぼネイチャーセンター前で採食行動などが観察された。

6月29日

7:45 アカモズ、チゴモズの両方をネイチャーセンター前で観察した。

7:55 アカモズがチゴモズに求愛給餌をしたが、チゴモズが1度受けとった食物をアカモズに返した。同じ食物をもう1度アカモズがチゴモズに求愛給餌をした。チゴモズは食物を受けとったまま茂みに入ったため、食物を食べたかは不明であった。

8:5 アカモズが巣材運びをした。その後観察を中断した。

6月30日10時10分、アカモズからチゴモズへ求愛給餌をした。その後観察を中断した。17時45分、アカモズがチゴモズへ求愛給餌をした。この日も巣づくりはほとんどせず、ネイチャーセンター前で採食をくり返していた。

7月4日11時45分、アカモズがチゴモズへ求愛給餌をした。その後観察を中断した。

観察記録は以上であるが、ここで両種の雌雄について述べる。アカモズは求愛給餌のさい食物を与えていたこと、および脇に褐色波状斑もなく、雄だと思われた。チゴモズは脇に褐色の横斑はなく、頭上が明るい青灰色と外部色彩があることからすると雄だと思われた。しかし、求愛給餌の食物を受けとっていたこと、山階鳥類研究所所有のチゴモズ（標識番号20849、1936年6月1日朝鮮江原道採集）で外部色彩は雄だが、卵巣のスケッチも添付されている雌の標本が存在することなどから（茂田良光 私信）、今回のチゴモズは雌ではないかと推測される。

7月5日以降アカモズとチゴモズが見られなくなったので、7月18日に巣をとりはずした。巣は地上2m40cmのエゾノコリンゴの茂みの中につくられていた。エゾノコリンゴの三つ又の枝の上に乗る形で、枯れ草をおもな巣材としていたが、ビニールも利用していた。巣はほぼ完成しており、産座も細い枯れ草でつくられていた。産卵は行なわなかったようで、卵はなかった。巣は、ネイチャーセンター南側より13m離れたところにつくられていた。

引用文献

日本野鳥の会北海道ブロック支部連絡協議会. 1991. 北海道地域別鳥類リスト. 野生物情報センター, 札幌.

Nesting and courtship feeding by Brown and Thick-billed Shrikes, *Lanius cristatus* and *L. tigrinus*

Koji Ohata¹

A Brown Shrike and a Thick-billed Shrike were observed building a nest together near the nature center of the Lake Utonai Bird Sanctuary in Hokkaido. The Brown Shrike fed the Thick-billed Shrike. From the plumage and behavior, it is considered that the Brown Shrike is the male and the Thick-billed Shrike is the female.

1. Lake Utonai Sanctuary. Uenae 150-3, Tomakomai, Hokkaido 059-13, Japan